



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



新年を迎えて



親愛なる『日口交流』読者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

国際社会が新型コロナウイルスの脅威にさらされた昨年、ロシアと日本のみならず、世界中の国々は幾多の試練に直面することになりました。また、昨年に貴団体を長年にわたって指導してこられた有馬朗人会長のご逝去について深い悲しみに包まれています。

有馬会長は、我が国との関係の肯定的な発展を含め、ロシアと人道的交流のために多大なるご尽力された優れた方として我々の心に残ります。

このような困難な状況の中でわかったのは、この大きな挑戦を克服するためには、人類全体の連帯並びに、国際協力のさらなる強化こそが必要だということです。昨年終戦75周年を迎えた第二次世界大戦での出来事も、歴史の教訓としてこのことを私たちに教えてくれました。

2021年には、『露日地域・姉妹都市交流年』事業を完全な形で実施し、それを両国の建設的な相互協力を示す新たな事例とすることを期待しています。本プロジェクトが、両国民の友情と信頼の強化を目指す様々な事業のためのバトンとなることを願っています。前途では、新たな重要課題があり、私たちが互いに向き合い働きかけることによって初めて、成功をはたせると信じております。

新年にあたり、皆さまに益々のご健勝とご多幸、ご繁栄をお祈りするとともに、露日関係が今後も力強く発展していくことを心より祈念いたします。

駐日ロシア連邦特命全権大使

M. ガルージン

.....
*有馬朗人会長は14年にわたり協会の会長を務めていただきました。いつも穏やかな笑顔で、学長室を訪問した際にも私たちの姿が見えなくなるまでお見送りくださいました。偉大な科学者として文化人として、崇高な人格と英知を兼ね備えた教育者でした。このような方が長年、協会に関わってくださったことは奇跡といえるかもしれません。私たちはこのことを深く心に刻み、忘れないでしょう。有馬先生、本当にありがとうございました。

限りない尊敬と感謝の気持ちを込めて、心からご冥福をお祈り申し上げます。(編集部)

お願い

NP0日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先: 郵便口座00160-9-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局E-Mail: nichiro@nichiro.org
Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

日口交流協会会員の皆様、友人の皆様

2020年12月10日

当協会の友人であり、仲間である貴協会会長有馬朗人教授の急逝という日口交流協会が見舞われた深い痛手に対し、深い哀悼の意を表します。長年にわたり同氏の直接の指導のもと日口交流協会はロシアにおいて、また当「ロ日協会」各支部を通して日本文化の普及及び情宣の活動を続けてこられました。

有馬氏の私達両国民間の友好及び相互理解の発展に対するご貢献は多大なものです。ご冥福を祈り感謝を捧げます。

有馬氏のご家族の皆様及び貴協会の会員の皆様の悲しみを心より分かち合いたいと思います。皆様とともに哀悼を捧げます。

「ロ日協会」全会員を代表して、

ロ日協会会長

I. ロマネンコ

理事長

G. ドウトキン

書記局長

E. クルチナ

.....
日口交流協会の皆様

2020年12月8日 哀悼の意

尊敬する貴協会会長有馬朗人氏の急逝という大きな悲しみに対し、「露日協会」オレンブルグ支部及びこれを代表してまた個人として、深い哀悼の意と心よりのお悔やみを申し上げます。

有馬氏はオレンブルグ及び日本の皆様が両国民間の伝統、文化及び他の生活分野の知見を得ることに尽力され、日本の諸機関との文化、経済及び科学交流に貢献され、日本の伝統芸術の研究に支援を続けられました。

貴協会の会員の皆様、親族及び近い皆様にとりつらいこの時に、皆様とこのとりもどせぬ死別の悲痛と悲しみを分かち合いたいと思います。

「露日協会」オレンブルグ支部長

L.V. ドカシェンコ

.....
特定非営利活動法人 日口交流協会様

貴団体の有馬朗人会長様のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

特定非営利活動法人日本・ロシア協会

会長 高村正彦

*ロシア大使館からも更に弔電を、日本対外文化協会から弔意をいただきました。

お知らせ

●第73回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2021年2月7日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ2階、造形表現室

会費: 3,000円(お好きな教材1セット含む)

講師: 菅野エレナ

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」6

日時: 2021年1月31日、2月7日、2月21日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ、多目的室1

講師: オクサーナ・ピスクノワ

授業料: 会員7,000円 一般8,000円

連絡先: 日口交流協会事務局E-Mail: nichiro@nichiro.org

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております

ウズベキスタン便り

寺尾 千之

去年の新年号に、ウズベキスタンを都立高校で紹介した留学生ナジロフ・ノジマさんについて寄稿しました。今回は、同講座を新たに担当したNORIKO学級出身のウリモンジノフ・マディナさん（東洋大学国際学部2年生）を紹介します。

学部では英語で授業が行われているため、日本語から遠のいていた彼女は、当初、及び腰でしたが、練習を重ねて講座に臨んでくれました。終了時刻の5分前に、生徒達は感想を書かされます。終了時に先生方が駆け寄ってきて、「いつもは2-3行書き書かない生徒が多いのに、今回は全員が感想をびっしり書いています」と、嬉しそうに感想文をペラペラとめくって見せてくれました。日・英・露・ウズベク・タジク・トルコ語で自己紹介をした抜群の語学力が、生徒達の心をわしづかみにし、彼らの関心を最後まで惹きつけた良い結果になりました。

講座で紹介した画像に、'06年7月、サポーター5名と共に学級訪問した際の写真があります。NORIKO学級が笑顔の子ども達で溢れています。

当時中学生だったマディナさんも小さく写っていました。「日本人に会るのが楽しみです、学校が



終わると毎日学級に飛んで来ていた」と言う彼女が、14年経った今、日本の高校生対象に講師を務めました。

学級創設者・大崎重勝さんは開設2年半後に、病気治療のため帰国せざるを得なくなりました。数カ月経った'02年8月、一人の女子大生の赴任を突破口に、毎年15名前後のボランティア講師が赴任するようになりました。当時は、夏休みを中心に数週間から3カ月の滞在が一般的でした。マディナさんは、他の子ども同様、異業種異年齢の日本人との出会いを楽しみながら、ひらがな、カタカナを覚えていきます。日本人不在になる寒い冬場には、先輩達が、自発的に子どもたちに日本語指導をしていました。その中の一人、ショヒジャホンさんは、'02年4月に大崎さんの招待で来日、小松短大の単位履修生として数年間日本に滞在した経歴を持っていました。流暢な日本語を話す彼女に刺激を受けたマディナさんは、高校卒業後、就職して渡航費用を捻出、'14年に念願になって来日します。大学入学前に、日本語学校に2年間、英語学校に2年間在籍します。大学での成績は優秀で、奨学金を授与されています。目標は語学力を生かして国際的な仕事に就くことだそうです。

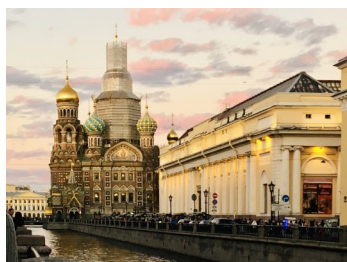
大崎さんは生前「私ができるのは、子ども達に安らぎの場を与えることだけ。その後の進路は自ら切り拓いて欲しい」と言っていました。マディナさんは、見事に実行に移していますね。多くのボランティア講師のおかげで、現在までの21年間、NORIKO学級は存続しています。でも「始めに大崎さんありき」。子ども達との真心の交流が、学級の礎を築いていることに間違いはないと、今回マディナさんを通して確信できました。（リシタン・ジャパンセンター事務局長）

ゲルツェン国立大学に留学して

今津 みなみ

2020年2月からサンクトペテルブルクに留学し、ゲルツェン国立教育大学（以下、ゲルツェン）の外国人向けコースでロシア語を学んでいます。COVIDによるキャンパスの閉鎖、各国の留学生の帰国ラッシュ、オンライン授業開始、膨大な量の宿題、孤独な自粛期間、お湯の出ない夏、新メンバー加入のサマーコース、寮内での引っ越し、国内旅行、パンデミック後初の新学期などなど…。想定外のイベントが続いた上、その全てがロシア語で展開されたため脳内は混乱を極めました。美しい街の中で移りゆく季節を感じながら、ロシア語の世界を広げていくことのできる毎日に感謝して過ごしています。

私が留学先としてゲルツェンを選んだのは、サンクトペテルブルクにあること、そして学生寮に滞在できることが決め手でした。渡航前は退職や住居の退去などで忙しくよく調べもせず来てしまったのですが、到着してみるとキャンパスはカザン大聖堂の目の前、寮はキャンパスから徒歩3分。最寄りのメトロは「ネフスキー・プロスペクト」という超便利な立地で驚きました。ビザの更新などを行



うオフィスも大学寮の1階にあるため、各種手続きもスムーズ。また、事前に調べていたヨガスタジオも徒歩5分、オーガニック系のスーパーやベジタリアンカフェ、ヴィンテージショップ、映画館、アート系書店など個人的に必要な生活用品やエンタメも徒歩10～15分圏内にあるため、QOLが異常に高い日々です。

「世界に美しい街は3つある。ペトログラード、レニングラード、サンクトペテルブルク」と謳われるよう、サンクトペテルブルクは本当に美しく魅力的な街です。ロシア語の初級で「гулять」（散歩をする）という動詞を習いますが、日本にいた頃は「散歩をする」の意味がよくつかめず（「行く」でよくない?）と思っていました（「行く」は非常に複雑な動詞だということはその後知りましたが…）。でも、ずらりとお行儀よく並ぶ荘厳な建物や、ゆったりと流れる大きな川、果てしなく広がる空、その空の色が夕暮れ時に少しずつ色を変えていく様子を眺めながら歩いていると、最終的に結構な距離をあてもなくぶらついてたことが発覚します。そして（ああ、これが「гулять」なんだなあ）と、美しい街の片隅で一人、言葉の意味を「体感」する毎日。それこそが外国でその国の言葉を学ぶ面白さであり、大切なことのひとつなのかも知れません。

《モスクワ・アラカルト62》

忘れえぬ人「岡田嘉子」

日向寺 康雄

今年(2020年)はコロナのせいで、結局一度も対面授業ができず、ついに学生達と会えぬまま年末を迎えた。ただその代わりと言っては何だが、動画配信授業に対する感想&質問メールの頻繁なやり取りを通じて、逆に「対面」では知れない、日本の学生達の本音や自然な姿が見えてきたように思う。彼らは、非常に優秀だがシャイで、教室では目立つことを嫌がり、直接反応してくれない。平成時代を丸ごとモスクワで過ごし、あちらの大学の雰囲気しか知らない私は、最初ひどく戸惑った。ただ今季は、モスクワ放送で担当したリスナーとの交流番組「お便りスパシーバ」と動画配信授業との共通性に気づき、かえって動画の収録が楽しいものとなった。以下紹介するのは、先日の授業(スターリンvs芸術)で、私が岡田先生の事を話した後、法学部のM君から受け取ったメールの一部である。

「夕食を食べている際に、認知症の祖母に岡田嘉子さんの事が授業で取り扱われた旨を話したところ、大きな反応がありました。昭和6年に生を受け、そのご幼少期を満州で過ごすなど、軍人であった曾祖父(対ソ国境でスパイ活動に従事、戦後無事帰国)と暮らしていた祖母ですが、いつという事は覚えていませんでしたが『岡田嘉子』という名を私が口にしたとたん『銀幕のスターよ』と声を大



きく反応し『本当に綺麗な人だった。皆憶れていた』と申し、私が『太平洋戦争よりも前に、御主人を亡くされたそう』と伝えると『知らなかった』と申しました。祖母曰く、幼少のみぎりであったため、詳しくストーリーがどうこうという事は思い出せないけれど、美しい人だったと連呼する様を見て、授業で初めて知った『岡田嘉子』がいかにすごい存在だったかを知ることができ、まさに久しぶりにこんなに熱量をもって祖母が何かを伝えようとしている様を驚嘆するばかりでした。一通り先生から教えて頂いた話などを伝えると、祖母は寝る前に『人の生き様というのは色々あるものね。分からないものね』と申ししていました。曾祖父の立場とスパイ容疑をかけられた岡田嘉子氏の立場に何かオーバーラップするところがあったのでしょうか。うつすらと涙を浮かべながら休みました。戦争中のあれこれというものは理解したくても如何ともしがたいところはあると思いますが、肉親を通じて岡田嘉子氏の無念さに想いを馳せる日となりました。」

先生は生前、日本からの客人を送り、キッチンで一緒にお茶を飲みくつろいでいる時などよく何気なく「私が死んだら、直に忘れられてしまうだろうね。芝居でも映画でも演出でも本でも、これはと言った代表作を残せなかったから…」とおっしゃったが、そのたびに「そんなことはありません。先生が生き抜いて来られた道そのものが、かけがえのないドラマで、百年後の教科書には写真入りで載ってますよ」と冗談めかして慰めるのが、私の役目だった。M君からのメールを読むと、あの日の美しい先生を思い出す。

(元モスクワ放送チーフアナ、現在中大・早大非常勤講師)

国際放送史研究の戯言No.010

モスクワのルースカヤ・ジマーが始まった

島田 顕

ロシアの冬の楽しみはいろいろあるが、大都市モスクワでの冬の楽しみは、何といっても劇場だろう。ロシアの楽団も劇団も、冬になるとロシア国内に戻ってきて本格的な活動を開始するからである。それが「ルースカヤ・ジマー」だ。ちなみに楽団、劇団は夏は何をしているのかというと、海外を回っている。いわゆる「どさまわり」で外貨を獲得し生活を成り立たせているのだ。もちろん、夏場にコンサートや演劇の上演がないわけではないが、本格的なものは多くはない。だから、ロシア人たちは冬が来るのが待ち遠しいのである。

コンサート会場や劇場は、ロシア人たちが着飾って集まる、社交の場でもある。ロシア人の冬の定番の衣装は、毛皮のコートと毛皮の帽子だ。コンサートに行くときは、コートの下によそ行きのフォーマルなドレスを着て、ガルデロープ(クローク)で毛皮のコートと帽子を脱いで預けるとフォーマルの華やかな衣装が露わになる。またロシア人は劇場に行くときは、足元を着飾ることも忘れない。雪が降り積もる道を歩かなければならないので、冬の外歩きの靴は長靴なのだが、コンサート会場でフォーマルなドレスに、汚れた長靴は似合わない。そこでロシア人たちはどうするのかというと、ドレスに似合うハイヒールの靴を持参し、コンサート会場に入るときに履き替え、外歩き用の長靴はコートとともにガルデロープに預ける。帰るときはハイヒールを靴に入れ、長靴で帰るのである。着飾るのは大人の女性たちだけではない。

ちっちゃな女の子たちも、いっちょ前のレディーのように振舞っていたのは、微笑ましくもあり、滑稽でもあった。

私がよく通い、最も印象深かったのは、コンセルバトリーとして知られるモスクワ音楽院(音楽大学)付属のコンサートホールである。敷地の表にどでんとチャイコフスキーの像が鎮座していて、建物の中には大ホールと小ホールがあり、大ホールではロシアの一流のクラシックの演奏家たちの演奏を耳にすることができる。

ロシア人の彼女と年末のコンサートに行ったことがあった。曲目はベートーベンの「第九交響曲合唱付き」。楽団のほかに、ソリストたち、合唱団もいて、本格的なものだった。歌はロシア語で歌われるのだと思っていたら、ドイツ語で歌われていたのは意外だった。ドイツ語の生演奏の「第九」を、年末にコンサートホールで聴くことができ、本当に嬉しかった。

年明けのニューイヤー・コンサートにも行った。まさにウィーンのニューイヤー・コンサートと同様にヨハン・シュトラウスの一連の作品を「ラデツキー行進曲」まで聴くことができた。印象に残っているのは、「鍛冶屋のポルカ」の時。鍛冶屋よろしく、いかつい男のパーカッショニストがエブロン姿で鍛冶屋の道具とともに前に出てきたことだ。鉄の塊を金づちでたたいて指揮者の横で陽気に演奏していた。音楽を聴くと、寒いモスクワの雪の夜でも、心が温まったものだった。

ミハイロフスコエ

畔上 明

2007年3月、ロシアの西の果て古都プスコフにて一日を過ごす機会に恵まれ、町の砦を中心として徒歩で市内を巡り歩いて半日、おおよその街の雰囲気を取り戻すや、昼過ぎにはこの先ミハイロフスコエまで足を延ばしてみようとふと思いついたのです。

近代ロシア文学の原点ともいべき詩人プーシキンゆかりの場所が、プスコフからは目と鼻の先にあると思うと急に居ても立ってもいられなくなり、街角に停まっていたタクシーに午後半日の貸切りをお願いしてみたところ快い返事を得ました。

エストニア、ラトヴィアとの国境線と並行した道を南下すること115キロ、郊外の林と平原を走り抜けていく間に、晴天の青空であった天候が怪しくなりいつしか鼠色の空模様に変化していきます。ついウトウトし掛けた途端、「ほらミハイロフスコエ到着だよ、好きなだけ歩き回って来るといいよ、戻って来るまでいつでも待っているから」と運転手に声を掛けられました。雪がパラついてきたと思ったら辺りの土地は既にほんのりとした白色世界となっていました。歩きながら学生時代暗唱したロシア語の詩が口をついて出てきます。

「愛、希望、波風立たぬ名誉 / そんな誤魔化しにいつまでも
甘やかされてはいなかった /
夢の如くに朝霧の如くに / 青春の慰みは消え去った /
だが我等にはなおも願望が燃えたぎる / 避けて通れぬ権力の
重圧の下 / 抑え難い魂が…」

プーシキンの詩は、翻訳にしてしまうと美しい言葉のリズムや響きが失せてしまいますが、その朗々と伝わる虚飾のないロシア語の表現力は二百年先の私たちの時代まで見事で分かり易い言葉として残っているのです。現代のどこやらの政治家の奥

歯に物が挟まったような歯切れの悪い紋切型、ステレオタイプの発言などは恥ずかしくなってしまうような、端的で堂々たる言葉の重みがあります。

プーシキンの詩は権力者から疎まれ恐れられ、詩人20歳の時に首都ペテルブルクを追われキシニョフ、カフカース、オデッサへ、そして、1824年20代半ばに当時家族が住んでいた北ロシアの辺境の地ミハイロフスコエにやって来て2年間の蟄居生活を送ったのです。戯曲「ボリス・ゴドゥノフ」を執筆し、代表作「エウゲニー・オネーギン」を書き始めたこの片田舎では、庭園と池や並木、小川と森の見事なバランスが、プーシキンの風景画を思わせます。庭園の中心に、プーシキンの屋敷博物館があり、館員は愛情を込めて語り始めたならばとどまるところを知りません。

プーシキンがその時期もしも首都での生活を続けていたならば、専制政治に抗議を唱えた青年貴族将校のデカブリストの乱に加わっていたに違いありません。ロシアの原風景ともいえる森に囲まれた景色と空気をしみじみ味わうことによって、時代

を超越したロシアと出会ったような心の安らぎを覚えます。

近くのスヴァトゴールスキー修道院にプーシキンの墓があるよ、是非とも墓を詣でなくては、とガイド役の如くタクシー運転手がいつの間にか現れこちらに歩み寄ってきて時間の経過に気付かされたのです。

(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)



モスクワ「ムゼイ」巡り・その24

皇帝アレクセイ・ミハイロヴィッチの宮殿

Дворец Царя Алексея Михайловича

大矢 温

以前このコーナーでコロームンスコエの野外博物館を紹介したことがあったが、今回もまた、そのコロームンスコエ。ただ、今回ご紹介するのは「コロームンスコエ」の南の端に立つアレクセイ・ミハイロヴィッチの宮殿。おなじ「コロームンスコエ」ではあるが、野外博物館からは2km以上離れているし最寄りの地下鉄駅も別々なので、別の日程で訪れるのがいいだろう。

さて、ロシアの建築について、しばしば「石の建築は権力者のもの、木の建築は庶民のもの」といわれることがある。確かにもっともではあるが、そこはロシア、例外も多々ある。今回のコロームンスコエの木造宮殿もその一つだ。もともとコロームンスコエは16世紀初頭のモスクワ大公ワシーリー三世から19世紀初頭のアレクサンドル一世に至る代々の大公・皇帝の離宮があったところで、宮殿自体も何度か作り直されている。ナポレオンのモスクワ侵攻の折に最後の木造宮殿が焼失し、その後建設されたアレクサンドル一世時代の宮殿（これは石造）も19世紀末に解体されると、



その後長い間、更地として放置されていた。ソ連崩壊後、発掘調査が進み、2000年代に入ってから宮殿の再建が始まった。再建されたのはロマノフ朝第二代皇帝アレクセイの宮殿。17世紀の木造宮殿だ。エカテリーナ二世時代の資料と、最近の発掘調査の結果をもとに再建が進み2010年に博物館として公開された。オリジナルの17世紀の宮殿と比べると規模は約半分、土台の一部に鉄筋コンクリートが使われているなど残念な点もあるが、それでも12棟の建物が複雑に連結した総床面積7000㎡以上、高さ30mの巨大な木造建築アンサンブルだ。その迫力に圧倒されてしまう。内装も豪華で、しかもペテルブルクのエルミタージュ（冬宮殿）などとは違い、純ロシア風だ。色ガラスの窓から差し込む光に輝く金色の内装に目を奪われていると、あたかもロシアのおとぎ話の世界に舞い込んだような錯覚に陥ってしまう。

アクセスも比較的良好。地下鉄カシールスカヤ駅を降りると、交差点の向こうに森が見える。森に向かって5分ぐらい歩けば巨大な木造宮殿が見えてくるので迷う心配はない。

(札幌大学地域共創群教授)

月曜休館日 入場料：大人400p

最寄駅は地下鉄 カシールスカヤ

Москва, Нагатинно-Садовники, пр. Андропова, 39.



今年もどうぞよろしく願いいたします

在日ロシア連邦大使館 在日本特命全権大使 ミハイル・ガルージン 〒106-0041 東京都港区麻布台 2-1-1 Tel:03-3583-4224 Fax:03-3505-0593	日本対外文化協会 会 長 松 前 達 郎 〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23 東海大学高輪キャンパス 3 号館 2 階 電話:03-6277-4209 FAX:03-6277-4210 http://www.taibunkyo.com
在日ロシア連邦通商代表部 通商代表 パブレンコ・ピョートル 〒108-0074 東京都港区高輪 4-6-9 Tel:03-3447-3281 Fax:03-3447-3221 E-Mail:tokyo@minprom.gov.ru facebook.com/TradeRepr.of.Russia.in.Japan	NPO 法人 日本・ロシア協会 会 長 高 村 正 彦 〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-10 麻布誠工社ビル 3 F A 電話:03-5797-7081 FAX:03-5797-7082
在日ロシア連邦大使館 国際人道協力連邦庁(ロシア連邦交流庁) 在日代表部 イーゴリ・チトフ 参事官 文化担当 東京都港区麻布台 2 丁目 1 番 1 号 電話 03-3583-4224 Fax03-3505-0593	日本ユーラシア協会 会 長 竹 田 正 直 〒156-0052 東京都世田谷区経堂 1-11-2 電話 03-3429-8231 Fax03-3429-8233 http://jp-euras.org/ja
有限会社 ロシアンティ 代表取締役 岩 橋 和 治 東京都台東区浅草橋 1-6-2 Tel/Fax:03-3863-3226	特定非営利活動法人 日本文化交流センター 理事長 平 岡 幸 雄 事務所〒243-0427 海老名市杉久保南 2 丁目 7 番地 10 号 Tel/Fax046-238-3311 携帯 090-5764-8305 E-Mail:hira8128@peach.ocn.ne.jp http://www2c.airnet.ne.jp/jarucul/index.HTML
株式会社日露サービス 代表取締役社長 NPO 日口交流協会 理事 野口 久美子 http://jprus-ip.com noguchi@jprus-ip.com	ナウカ・ジャパン合同会社 代表 村 上 直 隆 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34 Tel:03-3219-0155 Fax03-3219-0158 http://www.naukajapan.jp

今年もどうぞよろしく願ひいたします

私たちと一緒に日口交流をしませんか 会員申し込み歓迎！ NPO 日口交流協会 Общество Японо-Российских Связей 副会長 朝 妻 幸 雄 〒 106-0041 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org Tel: 03-5563-0626 Fax:03-5563-0752	株式会社ケット科学研究所 代表取締役社長 NPO 日口交流協会 副会長 江 守 元 彦 東京都大田区南馬込 1-8-1 電話 03-3776-1111
特定非営利活動法人 日口交流協会 副会長 服 部 文 男 技術士（建設部門） 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626	NPO 日口交流協会 専務理事 内 堀 學 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626
中小企業診断士・博士(商学) 岡 崎 好 典 NPO 日口交流協会常任理事 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626	NPO 戸田日露交流協会 理事長 NPO 日口交流協会 常任理事 水 口 淳 〒 410-3402 静岡県沼津市戸田 410-4 携帯 080-4520-3715 Fax0558-94-4256 E-Mail:info@hedakan.com
NPO 日口交流協会 常任理事 坂 本 斐 子 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626	NPO 日口交流協会 常任理事 社団法人古流松藤会会員 山 岸 ひ さ 子 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626
NPO 日口交流協会 常任理事 滝 波 秀 子 東京都港区麻布台 3-4-14-401 電話 03-5563-0626	特定非営利活動法人日口交流協会 Общество Японо-Российских Связей 常任理事 松 本 泰 男 〒 106-0041 東京都港区麻布台 3-4-14-401 Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752

今年もどうぞよろしく願いいたします

株式会社三多摩不動産 代表取締役 NPO 日口交流協会 常任理事 亀 田 慶 一 郎 本社〒187-0041 東京都小平市美園町1丁目33番1号 (西武新宿線・小平駅前) Tel:042-341-4041 Fax:042-341-9565	NPO 日口交流協会 常任理事 日 向 寺 淳 一 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-19-7-201 Tel/Fax:03-3969-6503
NPO 日口交流協会 理事 須 田 毅 NPO 法人ドルチェ邦楽合奏団神奈川支部事務局長 相模原市議会議員 〒252-0334 相模原市南区若松1-13-9 Tel/Fax042-743-6284 E-Mail:sudatakeshi@paw.hi-ho.ne.jp http://www.paw.hi-ho.ne.jp/sudatakesi/	NPO 日口交流協会 理事 土 屋 正 彦 東京都港区麻布台3-4-14-401 電話 03-5563-0626
荒川区伝統工芸技術保存会 手描き友禅師 荒川区無形文化財(保持) 笠 原 以 津 子 〒116-0002 荒川区荒川3-61-4-1203 Tel:03-5811-8228 080-5442-3518 itsukoko@sepia.plala.or.jp http:itsuko.sakura.ne.jp	NPO 日口交流協会 理事 大 道 寺 柳 子 東京都港区麻布台3-4-14-401 電話 03-5563-0626
イルクーツク市 日本情報センター セルゲイ・オディネツ	グローバルウィッシュ 株式会社 代表取締役 カンノ エレナ https://www.globalwish.net



大道寺小三郎氏
(国館市出身)

連絡先/大道寺会事務局
(弘前パークホテル内)
☎0172-31-0089
http://daidoji-kai.com/

大道寺会

年会費1,000円 どなたでも参加可 年1回パーティ開催

大道寺小三郎氏(1925-2005)の社会貢献活動を顕彰する会

- 第7代 日口交流協会 会長(2001年4月～2005年7月)
- みちのく銀行 元会長、青森 経済同友会 元代表幹事
- 2003年プーチン大統領令による「友好勲章」を受章

【日口交流活動の一例】

- 青森-ハバロフスク便を開設し、2,000人以上の日口の子供たちを互いの国に招待。
- '99年、ロシアに初の日本の銀行「みちのく銀行モスクワ」を設立。

他は「函館日口交流史研究会」HP内「日本と青森の交流史」にて紹介。
http://hakodate-russia.com/main/letter/32-01.html

大道寺小三郎氏 ロシア交流に関わる主な受章

95年7月	ハバロフスク市「名誉市民賞」受章
95年8月	ユジノサハリンスク市「名誉市民賞」受章
96年10月	ブレハノフ経済アカデミー「名誉博士号」受章
97年4月	ロシア国立極東総合医科大学「名誉教授号」受章
	ロシア国立ハバロフスク総合教育大学「名誉教授号」受章
97年7月	日本国 外務大臣賞 受章
00年12月	ロシア連邦「名誉領事」に任命
01年4月	「日口交流協会」会長に就任(前任 西澤潤一会長より引継)
03年1月	極東国立総合大学(在ウラジオストック市)教育部門「名誉博士号」受章
03年10月	プーチン大統領令によるロシア連邦「友好勲章」受章
03年12月	ロシア大使館にて「友好勲章」受章 伝達式ならびに パノフ大使主催の受章記念レセプション開催
04年5月	サンクトペテルブルグ「建都三百周年 記念メダル」受章
(05年7月21日)	白血病により逝去 享年80歳

今年もどうぞよろしくお願いいたします

露日協会 会長 イーゴリ・ロマネンコ ru-jp.org/orya.htm	ハバロフスク対外友好協会「すずらん」 理事長 ゴーヤ・ロイトマン nina-khv@narod.ru
オレンブルグ国立大学日本情報センター センター長 リュドミーラ・ドカシェンコ Pobeda Abe., 13, Orenburg, Russia http://www.osu.ru	露日協会エカテリンブルグ支部 支部長 オリガ・アキメンコ エカテリンブルグ情報文化センター「日本」 センター長 エレーナ・クライノワ http:www.ikc.japan.com
日本文化センター「ハマナス」 会長 ナタリヤ・ソボレワ 682860, Russia, Khabarovsk territory, Wanino	露日協会サラトフ支部 支部長 マリーナ・ジヤコワ Tel : 8-917-201-71-21
サンクトペテルブルグ 露日友好協会 事務局長 ニーナ・ツベトコワ 60, Leninsky street, 191025, Sankt-Peterburg	クラスノダール日本センター「改善」 センター長 オリガ・アンドレエワ http:jckk.ru/
ロータリークラブ「サラトフーセンター」 会長 ドミトリ・ウダロフ www.rotarysaratov.ru	ロシア文化教育センター グロバス センター長 ナタリア・ベレゾフスカヤ www.globus.jp.net